

# 人の不幸を踏み台にする カジノはNO!

今も水面が…(埋め立て進行中)  
2028年3月末まで「現役」の最終処分場



昨年末の国会で「カジノ(賭博)法案」が自民と維新、公明の多数で強行採決されました。  
松井知事や吉村市長は誘致に前のめりですが、どの世論調査でも「カジノ解禁反対」の声  
が多数です。カジノはいりません!

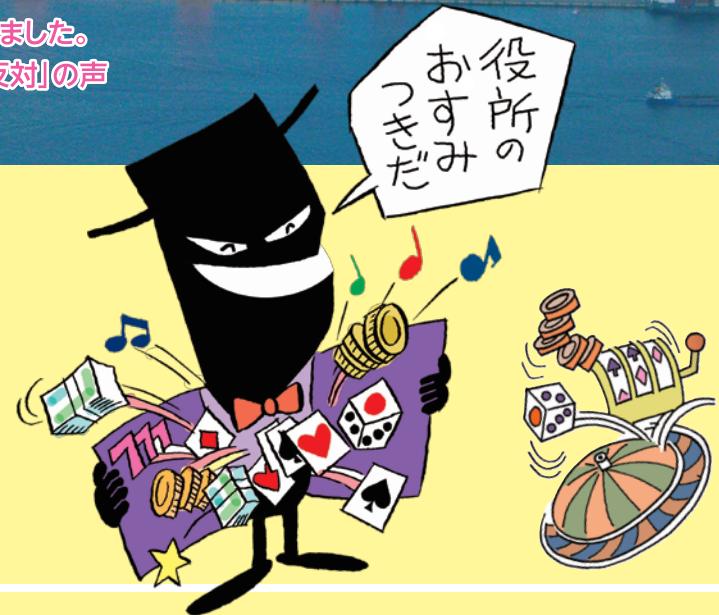
(大阪日日新聞 2016年12月19日)

写真提供:日本機関紙出版センター

## 必ずついてくる風俗・治安悪化

カジノ(賭博)には、心配なことがいっぱいあります。

暴力団が関連企業に潜り込む、不正なお金の洗浄(マネーロンダリング)、犯罪が発生し助長される、風俗環境が悪化する、青少年の健全育成への悪影響、多重債務問題が再燃するなど、市民にとって良いことはありません。



## 巨費を投入! ツケは市民に?



夢洲は、現役の廃棄物最終処分場、出来るだけ長く使うべきなのに、10年も前倒しで埋めてしまうことになります。新たな処分場の確保には数千億円もの税金投入が必要です。

さらに、夢洲へのアクセスとして①JR桜島線延伸(約1700億円)、②京阪中之島新線延伸(約3500億円)、③地下鉄中央線延伸(約540億円)、などの巨大事業が見込まれます。そのツケは結局市民に回ってきます。



## 日本人のお金をねらうカジノ業者

ギャンブルは何の生産物も生み出さず、人の不幸を踏み台に儲けるだけのものです。しかも、ギャンブルで負けた人の消費が減退し、マイナスの経済効果をもたらします。さらに、韓国ではカジノ・ギャンブルによる経済的損失が年間7兆7000億円にのぼり、カジノ・ギャンブルの経済効果の4.7倍もの損失が生まれていると国所管の「監督委員会」が公表しています。

カジノがなくても外国人観光客は増え続けていますが、その多くは日本のすばらしい食や文化がお目当てです。一方、外国のカジノ業者のお目当ては日本人のお金です。

「こんな猥雑(わいざつ)な街、いやらしい街はない。  
ここにカジノを持ってきてどんどんバクチ打ちを集め  
たらいい。風俗街やホテル街、全部引き受ける」

企業経営者ら約750人を前に、2009年10月29日

「ギャンブルを遠ざける故、坊ちゃんの国になった。  
小さい頃からギャンブルをしっかり積み重ね、全  
国民を勝負師にするためにも、カジノ法案を通  
してください」

カジノ議連の議員を前に、2010年10月28日

(橋下語録)